

# 追悼山行報告

2016年8月9日

山田昭一

一昨年7月に亡くなった高橋洵さんのご遺骨を散骨した針ノ木岳に三回忌の追悼に行ってきました。散骨山行、一周忌山行と2年続けて針ノ木岳登頂を果たしましたが、今年は故人ゆかりの船窪小屋まで足をのばす計画を立てて臨みました。小屋のご主人松澤宗洋さんは高橋さんと大町の高校山岳部の同級生、ご主人の奥様は高橋夫人の中学校の同級生という濃いご縁があります。高橋さんが亡くなる前の年の秋に病身を押してOGACの仲間を引き連れて小屋を訪れ、これが高橋さん最後の山行となりました。

## 1. 日時

2016年7月15日(金)-18日(月・海の日)

## 2. メンバーと行程

	斎藤清雄(74)	小林俊人(67)	吉田隆三(67)	L: 山田昭一(66)	上島康嗣(63)
15日 雨	午後扇沢入山→ 大沢小屋泊	—	—	—	—
16日 曇り	大沢小屋→ 針ノ木岳山頂→ 針ノ木小屋泊	早朝扇沢入山→針ノ木岳山頂→ 針ノ木小屋泊	遅れて扇沢入山→針ノ木岳山頂→ 針ノ木小屋泊		
17日 風雨	針ノ木小屋→ 扇沢下山→ 高橋邸	針ノ木小屋→蓮華岳→北葛岳→七倉岳→船窪小屋泊			針ノ木小屋→ 扇沢下山→ 高橋邸
18日 晴れ	—	船窪小屋→船窪新道→七倉下山→高橋邸			—

## 3. 行動記録(主として山田の記録です。)

7月15日

一足早く斎藤さん入山。午後5時に、「今大町に着いた。扇沢行き最終バスで入山」とのメールがはいり、えーっ、こんな時間にと思いましたが、まあこれが斎藤流かと思い、サラッと受け流しました。その日、雨の中を、ヘッドランプを使うことなく大沢小屋に着いたそうです。

7月16日

関西組の上島と山田はそれぞれ車で七倉へ。夜中に飛ばして来て待機していた上島号に山田号が9時前に合流。山田号を七倉に置いて上島号で扇沢へ。扇沢の無料駐車場は満車で有料駐車。いざ入山。今にも降り出しそうなドンヨリ天気で、山の景色は雲の中。登山口ではこれまでは無人のポストに入山届を出してたけど、今回はテントに受付の小父さんがいてチェック。夜行で東京を発って先に入山している2人は2時間ほど前に行きましたよと。

3年連続なのですっかり歩き馴れてるつもりでのんびりと歩き始め、2度目に車道に出たところもなんとなく迷わずに車道を左に少し歩いて左の山道へ。あれ、こんな道だったかなと思いつつも、道はしっかりしているし赤布マークもあるし、そのまま進むと、沢の左岸の山道に入っていくはずがいつまでも右岸沿い。正規のルートとは違うなと思って地図をみても1本道で、ほかに道は無かったよな、てなことを言っていると道の脇に車が停まっていたのが「針ノ木小屋」の表示。更に進むとまたもう一台「針ノ木小屋」の車。これまでのルートとは別のルートかということにして進むと大きな堰堤に立派な梯子がかかっているいかにも登山ルートの雰囲気。さらに行くとやっとなら川を左岸に渡る橋が現れ、それを少し登るとひょっこり大沢小屋に出た。予定時間より大幅短縮な楽なルートでした。後で調べたら、2度目の車道は真

っ直ぐ横断して向かいの山道に入るのが正しいハイキングルート。うっかり間違っ大正解でした。後で聞けば斎藤さんもこのルートで来たそうです。小屋の人もお勧めルートだと。

小屋を過ぎればやがて左下に雪渓が見えてくるはずなのに、谷筋はまったく雪がない。昨年は8月でも大きな雪渓が見えていたのに。山腹の山道が谷筋におりるところからは漸く雪渓に。そこで軽アイゼンをつけて、ガスに包まれて視界20mの雪渓に突入。

昨年は快調に楽しく登った雪渓が今年はやたらとしんどい。先に行く上島にどんどん引き離され、ガスの中に消えていく。後続パーティーにも抜かされる。途中、ノドと呼ばれるゴルジュのあたりか、ドドーンと轟音が響き渡り、左岸の山側の雪渓が私のすぐ横で大きく崩壊した。クワバラクワバラ。

しばらく行くと、左岸のガレ場の上島が待っていて、ここで雪渓歩きは終了。昨年の記録では雪渓を1時間15分歩いているのに今年はこのゆっくりペースで55分しか歩いていない。かなり雪が少ない。損した気分。左岸から一度雪渓に出て、右岸の山道へ。最後の水場の沢で小休止し、左岸に移って最後の長いジグザグ道を歩くと峠から小林のエールが聞こえ、ガスにぼやけた峠に人影がボンヤリ。最後の元気を振り絞り漸く針ノ木峠に到着。小林、吉田と無事合流。斎藤さんは一足早く山頂に向かったと。

小屋にチェックインだけ済ませ、すぐに空身で斎藤さんを追って山頂に向かう。チングルマやシナノキンバイやシャクナゲなど可憐な花が沢山咲いていて、しんどいけど楽しい登り。ヨタヨタの足取りで斎藤さんの待つ頂上に辿り着いた。



頂上で待つヴァン・ゴッホ？  
斎藤さんでした。



シナノキンバイと雷鳥

頂上に着いて暫くすると急に空が晴れ、立山・剣や槍・穂がきれいに見渡せ感激。頑張って登ってきた甲斐がありました。高橋さんもさぞお喜びでしょう。明日も晴れるぞと元気百倍、とはいかないが、まあ三倍ぐらい。下山の途中、お花畑に雷鳥の親子がお散歩。登りの途中で、荷が軽すぎて膝の裏が伸びきってしまったとかで脚を痛めた上島が大幅遅れ。

針ノ木小屋は結構な賑わい。7割ぐらいの入りでしょうか。夕食は2部入れ替え制でしたが、第1部の我々がビールやワインでうだうだと長居していて第2部の時間になっても2年前のように追いつきませんでした。

7月17日

夜中から頭痛がして頗る不調。起きる頃には吐き気もして、軽い高度障害的症状。標高2500mで？ 気圧

は平地の約75%だけ。まあ歩けないほどではないので、取り敢えず朝食は抜いて行くことに。上島は昨日の脚の故障が思わしくなく斎藤さんと一緒に扇沢に下山することに。残念。しかも、昨夜は今日の天気



気に期待を持たせてくれたのに、出発間際になってついに降り出した。全く意気が上がらない今日のスタート。

蓮華岳への取り付きは結構急なハイマツ帯の登り。次第に風も強くなってきた。元気な小林から大きく遅れ、後ろは吉田が辛抱強く付き合ってくれている。急登をすぎるとコマクサがあちこちに見られてしんどさを和らげてくれるが、この風と雨のなかではとても写真を撮る



雪渓の前に意気軒昂の上島



ガスの針ノ木雪渓を快調に登る上島



ややガスが薄くなった雪渓最終点の山田



槍・穂をバックに

余裕はない。あとで写真を整理したらコマクサの写真は一枚も撮っていないととても悔やまれました。石楠花やニッコウキスゲもきれいでした。

蓮華岳山頂まで1時間半。ハイキング地図標準タイムのちょうど5割増し。西風が強く顔の右側に、雨が霰かプチプチと当たって痛い。ここから元に戻って下山という意見も出たが、折角ここまで苦労して来た挙句の挫折は勿体ない。ひたすら前進。しかし、蓮華の大下りはさすがに難所続き。ワイヤや梯子の連続で、クライミングダウンには両手のストックが邪魔でしようがない。ザックにつけてしまえばいいのだけど、この風雨の中でそんなことをするのも面倒くさい。ここは下りより登りの方が楽なのではないかと思うほど。翌朝船窪小屋からこのルートを見たら、すごい断崖絶壁を下ってました。

うんざりする大下りを終えて、こんどは北葛岳へのうんざりする登り。雨と風は時折やむようになってきたが、晴れる気配はない。展望のない北葛岳を過ぎ七倉のコルあたりまできて漸く天候回復の兆しが見えてきて、体調も少し戻って空腹を感じ、針ノ木小屋の昼食のおにぎりを1個食べた。七倉岳の頂上で漸く晴れてきた。ここから船窪小屋までは10分程のなだらかな下り。すっかり天気も回復し、小屋の前の広場も賑やか。鐘を鳴らして迎えてくれて、すぐに暖かいお茶のサービス。更に、ここで濡れた靴を脱いで下さいとスリッパまで持ってきてくれて、至れり尽くせり。



小屋の囲炉裏端に高橋さんと高校の山岳部の同級生のご主人がおられ挨拶。ぼそぼそと色々なお話をしてくれました。奥様も高橋夫人の中学の同級生ということで、ご一緒に話が盛り上がりました。

夕食は噂に違わず豪華。お母さんの手作りの煮物や漬物に山菜の天ぷらなど、下界の定食屋より美味しい食事でした。夕食後は宿泊者みんなが囲炉裏の周りに集まって大茶会。まずはDVDビデオで、黒四ダム建設後に廃れた針ノ木古道の復活事業を小屋のご主人がやり遂げた記録映像の紹介があり、その後宿泊者全員の自己紹介や小屋のご夫妻のお話しやら。電気のない山小屋のランプの明かりの雰囲気も相俟って、知らない人同士もすっかり仲間気分になれるいい雰囲気でした。こんなことをする小屋は他にはないでしょう。北アルプス一の人気の小屋の所以ですね。



松澤宗洋・寿子夫妻



豪華な夕食(2人前)



ランプの茶会

松澤夫妻・従業員の  
吉田嬢と出発前に



7月18日

今朝はすっかり晴れ渡って最高の登山日和。剣から穂高まで完璧。こんな日に下山はまことに勿体ない。下山したら高橋邸に寄ってきますと言ったら、ご主人が出発の時に土産をこと付けてくれました。ついでに我々3人にも頂きました。小屋の前で記念撮影して、いざ出発。

暫くはなだらかな下り。天狗の庭を過ぎると急な下りに様変わり。樹林帯にはいると益々険しい。“胸突き”ならぬ“鼻突き八丁”というだけあって、よくこんなところにルートをつけたもんだと、そのご苦労を思い遣りました。高橋さんが亡くなる前年に、ここを最後の山と力を振り絞って登られた時の壮絶な思いを身に沁みて感じました。途中、岩小屋やベンチで休みながら七倉に到着。なんとか地図の標準時間通り4時間で下りて来られました。

下山後はお決まりの大町市民温泉“わっぱらの湯”へ。昨年は65歳以上250円との安さにびっくりしたけど、今年は更に下って200円。またまたびっくり。ここでさっぱり汗を流して高橋邸へ。

お蕎麦を用意してくからねと言って戴いてましたが、お蕎麦どころか、サラダやチキンや漬物などなど豪華なおもてなしで迎えて戴き恐縮しきりでした。高橋さんの思い出話しや小屋のご夫婦の話し、私が持参したチョコリサ遠征のテレビ番組の記録DVDなどで盛り上がりました。

今回もとてもいい山行になりました。高橋さんが生前いい小屋だから是非行けと言っていた船窪小屋にも、悪天候をおして行くことができ、噂通りの小屋の雰囲気よさ、ご主人夫婦の暖かさと情熱と、そして何より高橋ご夫妻松澤ご夫妻との絆の強さを実感することができました。大町の山荘でご仏前と奥様にいい報告ができました。来年もまた、趣向を考えて追悼山行を企画したいと思います。

4. 山田のコースタイム(別動隊ありで皆さんマチマチです)

7月16日(土)

- 09:25 扇沢駐車場発
- 09:30 登山口[1425m]
- 10:25-10:30 大沢小屋[1670m]
- 11:05-11:25 雪溪下(アイゼン着用)
- 12:20-12:35 雪溪上(アイゼンはずす)
- 13:10-13:15 水場
- 13:35-13:40 小休止
- 14:20-14:35 針ノ木峠[2536m]
- 15:55-16:15 針ノ木岳山頂[2821m]
- 17:00 針ノ木峠(小屋)[2536m]

7月17日(日)

- 06:25 針ノ木峠(小屋)[2536m]
- 07:55-08:00 蓮華岳山頂[2799m]
- 09:30-09:40 北葛乗越[2275m]
- 11:00-11:10 北葛岳山頂[2551m]
- 12:00-12:10 七倉乗越[2316m]
- 13:25-13:40 七倉岳山頂[2509m]
- 13:50 船窪小屋[2450m]

7月18日(月)

- 06:10 船窪小屋[2450m]
- 06:35-06:40 天狗の庭
- 08:00-08:20 岩小屋
- 09:20-09:30 ベンチ
- 10:05 船窪新道登山口
- 10:10 七倉駐車場[1050m]



ハクサンシャクナゲ

コイワカガミ

OGACのHPのアルバムもご覧ください。



チングルマの花(左)と綿毛(右)



アオノツガザクラ



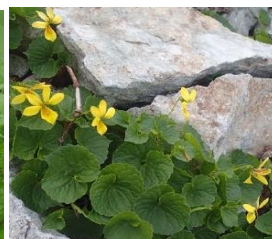
オオバギボウシ



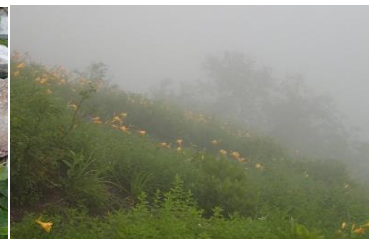
シナノナデシコ?



シナノキンバイ



キバナノコメツメ



ニッコウキスゲ



針ノ木山頂から槍・穂



針ノ木山頂から劔岳



針ノ木峠から北葛岳・七倉岳